

2024年（令和六年）

6月7日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

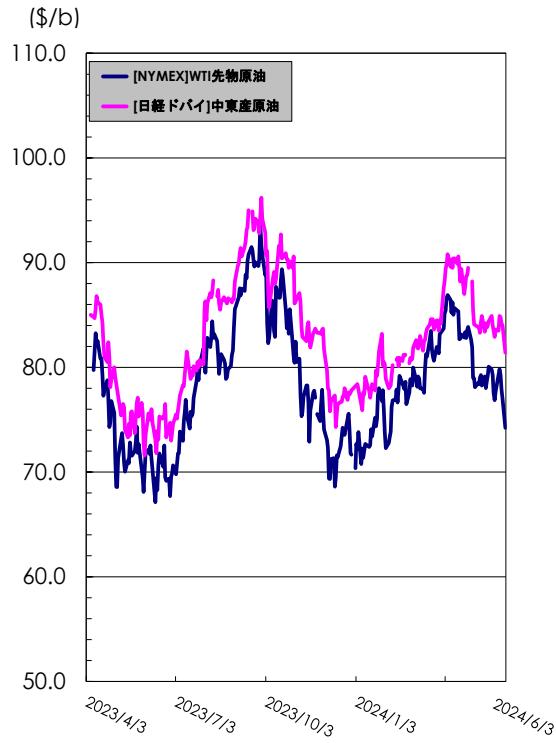
当週(5月30日～6月5日)の国際石油市場は、続落の77.91ドルで始まり、米国需要の減速懸念等を背景に値下がり傾向を示した。2日開催のOPECプラス閣僚会議では、全体の協調減産は2025年末まで、主要8カ国による追加自主減産は9月末まで延長されたものの、同時に10月以降の自主減産緩和も決まったことから、下落傾向に拍車がかかり、5営業日続落、4日は73.25ドルまで低下した。5日は、反発の74.07ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)も、前週(5月23日～29日)82.90～84.90ドルの範囲で推移したが、当週は、5月30日84.20ドル、31日84.00ドル、6月3日81.40ドル、4日78.50ドル、5日78.30ドルと推移した。

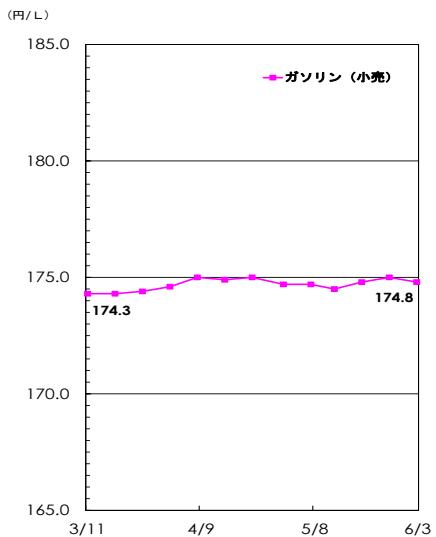
対ドル為替レート(1TTM)は前週(5月23日～29日)156.87～157.40円の範囲で推移したが、当週は、5月30日157.62円、31日156.74円、6月3日157.18円、4日156.47円、5日155.30円となった。

そのような中で、6月3日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円安、軽油も同0.2円安、灯油は1円高(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.8円となった。6月6日～12日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は26.2円(補助金がない場合の次週予想価格201.0円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は16.0円)となった。

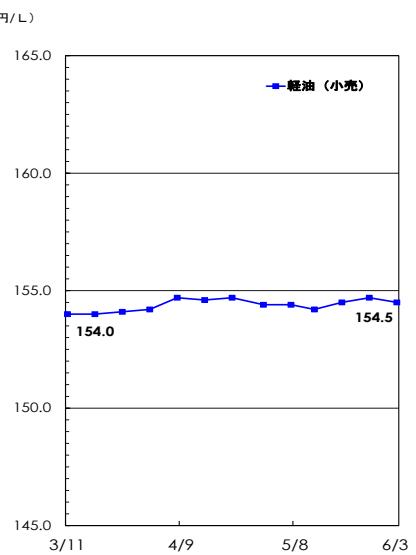
| 原油 | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|----|--------------------------|----------|--------|---------|----------|
| 需給 | 原油処理量 (千㎘) | 5/26～6/1 | 2,428 | ▼ -24 | ▲ - |
| | トップ稼働率 (%) | 〃 | 67.5 | ▼ -0.7 | ▲ - |
| | 原油在庫量 (千㎘) | 6/1 | 10,216 | ▲ 382 | ▼ - |
| 価格 | 中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl) | 6/3 | 81.40 | ▼ -2.10 | ▲ 5.8 |
| | WTI先物原油 (NYMEX) (\$/bbl) | 6/3 | 74.22 | ▼ -5.61 | ▲ 2.1 |
| | 原油CIF単価 (\$/bbl) | 5月上旬 | 88.72 | ▲ 2.00 | ▲ 2.27 |
| | ①原油CIF単価 (¥/㎘) | 〃 | 86,375 | ▲ 2,992 | ▲ 12,765 |
| | ②ドル換算レート (¥/\$) | 〃 | 154.76 | ▼ -1.89 | ▼ -19.39 |
| | 外国為替TTSレート (¥/\$) | 6/3 | 158.18 | ▼ -0.31 | ▼ -17.00 |



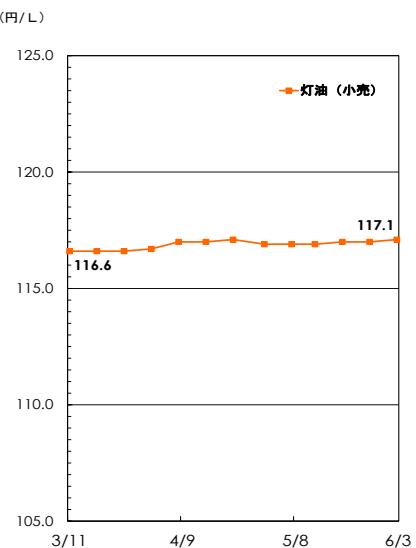
| ガソリン | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|----------|-------------------------------|------------|-------|--------|--------|
| 需給 価格 | 生産 | 5/26 ~ 6/1 | 800 | ▲ 10 | ▲ - |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | " | 688 | ▲ 8 | ▼ - |
| | 輸出 | " | 62 | ▲ 37 | ▲ - |
| | 在庫 | 6/1 | 1,882 | ▲ 50 | ▲ - |
| | 先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾) | 5/28 ~ 6/3 | 83.0 | ➡ 0.0 | ▲ 10.0 |
| | (TOCOM/中部) | 6/3 | 80.7 | ▲ 0.7 | ▲ 6.2 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 6/3 | 174.8 | ▼ -0.2 | ▲ 6.1 |
| | ※業転、先物価格は税抜き価格 | | | | |



| 軽油 | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|----------|-------------------------------|------------|-------|--------|-------|
| 需給 価格 | 生産 | 5/26 ~ 6/1 | 706 | ▲ 70 | ▲ - |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | " | 556 | ▲ 46 | ▲ - |
| | 輸出 | " | 20 | ▼ -105 | ▼ - |
| | 在庫 | 6/1 | 1,614 | ▲ 129 | ▲ - |
| | 先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾) | 5/28 ~ 6/3 | 83.7 | ▲ 0.2 | ▲ 5.2 |
| | (TOCOM/中部) | 6/3 | - | - | - |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 6/3 | 154.5 | ▼ -0.2 | ▲ 5.9 |
| | ※業転、先物価格は税抜き価格 | | | | |



| 灯油 | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|----------|-------------------------------|------------|-------|-------|-------|
| 需給 価格 | 生産 | 5/26 ~ 6/1 | 115 | ▼ -42 | ▲ - |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | " | 39 | ▲ 68 | ▼ - |
| | 輸出 | " | 26 | ▲ 26 | ▲ - |
| | 在庫 | 6/1 | 1,636 | ▲ 50 | ▲ - |
| | 先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾) | 5/28 ~ 6/3 | 81.5 | ➡ 0.0 | ▲ 6.4 |
| | (TOCOM/中部) | 6/3 | 82.0 | ➡ 0.0 | ▲ 6.7 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 6/3 | 117.1 | ▲ 0.1 | ▲ 5.9 |
| | ※業転、先物価格は税抜き価格 | | | | |



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(5/23~5/29)のNYMEX・WTI先物市場は76.87~79.83ドルの範囲で推移した。

当週、30日は、この日発表の米国石油在庫が、原油は大きく減少したものの、ガソリン在庫が予想外の増加で、6月からのドライブシーズンを前に、製品需給の緩みが意識され、続落した。米国の利下げ先送りへの警戒感もあった。7月物終値は、前日比1.32ドル安の77.91ドル。

週末31日は、5月のシカゴ景況指数が悪化、米国景気の減速が石油需要への悪影響懸念が高まるとともに、6月2日にWEB開催予定のOPECプラス閣僚会議の結果様子見気配により、3日続落した。3月の米国産油量が高水準であったとの統計発表も値下がり要因。7月物終値は、同0.92ドル安の76.99ドル。

週明け3日は、2日に急速リードで対面開催されたOPECプラス閣僚会議で、全体による協調減産366万b/dは2025年末まで、有志5カ国による追加自主減産220万バレルb/dは9月末まで延長されたものの、10月以降は段階的縮小す

る方向が合意されたことから、需給緩和感が高まり、4日続落した。7月物終値は同2.77ドル安の74.22ドルと約4か月ぶりの安値を記録した

4日は、ひき続き、先行き需給緩和感がある中、対ユーロでドル高が進行、原油先物の割高感も重なり、続落、約4か月ぶりの安値を記録した。5日発表予定の米国石在庫報告の取り崩し観測が下値を支えた。7月物終値は、同0.97ドル安の73.25ドル。

5日は、5月の米国非農業部門雇用者統計が増加したものの鈍化、雇用過熱感が後退、早期利下げ期待から、需要増加が高まり、6営業日ぶりに値上がりした。安値拾いの買いもあった模様。ただ、この日発表の先週末の米国石油在庫が、原油・ガソリンとも積み増しであったことが上値を抑えた。7月物終値は、同0.82ドル高の74.07ドル。

2 海外/米国石油市場

5月30日発表の24日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比420万バレル減と市場予想(同200万バレル減)を上回る取り崩しであったが、ガソリンは同200万バレル増と市場予想(同50万バレル減)に反する内容で、6月からのドライブシーズン入りを前に今後の需要に不安を抱かせるものだった。また、5日発表の5月31日時点の同統計は、原油が前週比120万バレル増と市場予想(同230万バレル減)に反し、ガソリンも同210万バレル増と市場予想(同200万バレル増)をわずかに上回る増加で、足元の需給の緩みを示した。

EIAによると、6月3日時点で、ガソリンの小売価格は、前

週比6.1セント安の1ガロン3.516ドル(146.7円/㍑)と6週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.2セント安の1ガロン3.726ドル(155.5円/㍑)と8週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、5月31日時点で、前週比1基減の496基と3週ぶりに減少した。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年5月26日~6月1日に休止したトッパー能力は63.2万バレル/日で、前週に対して3.0万バレル/日減少した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は242.8万kLと、前週に比べ2.4万kL減少。前年に対しては27.0万kLの増加。トッパー稼働率は67.5%と前週に対して0.7ポイントの減少、前年に対しては9.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.2%増、ジェット/2.5%増、灯油/26.7%減、軽油/11.0%増、A重油/1.7%増、C重油/31.9%増。今週のC重油の輸入は0.0万kL(前週比横ばい)。軽油の輸出は2.0万kL(前週比10.5万kL減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、ジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は68.8万kL(対前週1.2%増)と3週振りに増加した。ジェット9.0万kL(対前週144.9%増)、灯油3.9万kL(対前週235.3%減)、軽油55.6万kL(対前週9.2%増)、A重油14.3万kL(対前週15.1%減)、C重油11.8万kL(対前週11.7%減)。

(単位:千kL)

| | 今週 (5/26 ~ 6/1) | 前週 (5/19 ~ 5/25) | 前週比 |
|--------|--------------------|---------------------|--------------|
| ガソリン | 688 | 680 | ▲ 8 (1%) |
| ジェット燃料 | 90 | 37 | ▲ 53 (143%) |
| 灯油 | 39 | -29 | ▲ 68 (-234%) |
| 軽油 | 556 | 510 | ▲ 46 (9%) |
| A重油 | 143 | 168 | ▼ -25 (-15%) |
| C重油 | 118 | 133 | ▼ -15 (-11%) |
| 合 計 | 1,634 | 1,499 | ▲ 135 (9%) |

※今週出荷量 = (前週末在庫+今週生産+今週輸入) - (今週輸出+今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

6月1日時点の在庫は全ての油種で積み増しとなった。前年に対してはC重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは188.2万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては22.8万kl多い。

灯油は163.6万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては23.7万kl多い。

軽油は161.4万kl、前週差12.9万kl増。前年に対しては18.3万kl多い。

A重油は76.8万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては7.6万kl多い。

C重油は176.0万kl、前週差2.7万kl増。前年に対しては14.1万kl少ない。

| | 今週 (6/1) | 前週 (5/25) | (単位:千KL) 前週比 |
|--------|-------------|--------------|-----------------|
| ガソリン | 1,882 | 1,832 | ▲ 50 (3%) |
| ジェット燃料 | 823 | 807 | ▲ 16 (2%) |
| 灯油 | 1,636 | 1,586 | ▲ 50 (3%) |
| 軽油 | 1,614 | 1,485 | ▲ 129 (9%) |
| A重油 | 768 | 742 | ▲ 26 (4%) |
| C重油 | 1,760 | 1,733 | ▲ 27 (2%) |
| 合 計 | 8,483 | 8,185 | ▲ 298 (3.6%) |

5 国内/元売会社製品卸価格

5月28日～6月3日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートは円安で、円建て輸入原油価格は値上がりした。元売会社の卸価格建値は値上げしたものと見られるが、補助金の増額により、6/6～6/12の実質卸価格はほぼ横ばいとなった模様。

6 国内/製品小売価格

6月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値下がりの174.8円、軽油も同0.2円値下がりの154.5円、灯油は18.1円ベースで同1円高の2,107円(1.1円ベースでは0.1円高の117.1円)。ガソリンは3週ぶりの値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油は2週ぶりの値上がりであった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが12県、横ばいは14都県、値下がりが21道府県だった。全国最安値は岩手県の168.3円、その次は愛知県の168.8円であった。他方、最高値は長野県の184.5円。最も値上がりしたのは茨城県(同0.8円高)、最も値下がりしたのは和歌山県(同1.9円安)だった。

次回調査時(6/10)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

| (資源公表) [週動向] | 今週 (6/3) | 前週 (5/27) | 前週比 | 直近高値 |
|------------------|----------------|--------------|--------|------------------|
| 小 売 価 格 | レギュラー 174.8 | 175.0 | ▼ -0.2 | 23/9/4 186.5 |
| | 灯油 117.1 | 117.0 | ▲ 0.1 | 08/8/11 132.1 |
| | 軽油 154.5 | 154.7 | ▼ -0.2 | 08/8/4 167.4 |

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) に掲載しています。

次回（2024第10号）の公表は、6/14（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。